
ポケモン不思議のダンジョン 緑の探検隊

光輝宙(ピカチュウ)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン不思議のダンジョン 緑の探検隊

【Nコード】

N6635X

【作者名】

ピカチュウ
光輝宙

【あらすじ】

この話は記入されるとおり、ほぼオリジナルです。丸コピではありません。

この時代はポケモンしかない時代。

この時代で物語ができる・・・

ミケ（ピカチュウ）が、海岸でヒカル（ヒトカゲ）が倒れてるのを見かけた。

しかし、ヒカル（ヒトカゲ）は記憶がなかった。

どこからきたかも。

なんているのかも。

しかし、自分の名前は覚えてる。

ここからいろいろな出来事に巻き込まれる。

お知らせ【10 / 23は更新可能か分かりません】

〈第1話〉 出会い(前書き)

さて、この小説を作ろうと考えるから5時間です
でわ第1話スタート

〈第1話〉 出会い

ある日……

トレーシャータウンの海岸にヒトカゲが倒れている。

どうやら嵐にまきこまれここに倒れてたようだ。

こんな事は誰も知らず……

そこへ、ピカチュウが来た。

そこでピカチュウは倒れているヒトカゲを目撃した。

ピカチュウは早速と駆けつけた。

ピカチュウ「ねえ、君！大丈夫！？しっかりして！？」

とても心配しているようだ。

ヒトカゲは目を覚ました。

ヒトカゲ「……ここは？」

ヒトカゲは不思議そうに言った。

ヒトカゲ（なんでここに……？思い出せない……）

そう、ヒトカゲは記憶を失ったのだ。

ピカチュウ「君はどこから来たの？ここらでは見かけないけど・・・」

ピカチュウは言った。

ヒトカゲは自分が人間と言うことと、名前は思い出せた。

この事を詳しく話した。

ピカチュウは驚いた。

ピカチュウ「しかし、なんでこうなったのかわからないのか・・・」

と、そこへ・・・

つづく

〈第1話〉 出会い（後書き）

はいひとつと

えーと、えー、その・・・だから・・・

・・・

とりあえず明日は更新がしっかりできます。

〜第2話〜 ドガースとズバット、あらわる！（前書き）

しーーーーっかり書きましたお

しかし、16時から21時まで完成にかかったとさ（爆）

今回に新たに出て来るポケモンは、

本日友達に

好きなポケモンは？

で意見の多かったポケモンを出します。

あるポケモンはともおおいですが、
名前をふせています

それは、ばれると今度の展開がぐちゃぐちゃになりますからねえw

とりあえずスタート！

おまけがあるよ それは下に。

〈第2話〉 ドガースとズバット、あらわる！

〈前回〉

ある嵐の日の次の日、海岸にヒトカゲが倒れていた。

そこへピカチュウが来てヒトカゲは起きたが、

なんとヒトカゲが記憶を失っていた。

そこへ空から・・・

.....

空から何か飛行生物（？）が真上を素通りした。

そのすきに誰かに体当たりをされた。

『いたっ！』

体当たりをしたのはドガースとズバットだ。

どうやら、あの物をねらってるらしい。

それは、珍しい模様の入った岩だ。

ドガース達はこれをお宝だと思い狙っているのだ。

その時にドガース達が狙っている岩をピカチュウは落としてしまった。

その石をなんとドガース達が奪ってしまった。

ドガース「どうした？奪い返しに来ないのかい？」

ドガースからかうように言った。

ピカチュウ「うう……」

ドガース「じゃあな、弱虫君。」

ズバット「いい気味だぜ。ケケケ。」

と、言つて洞窟に入つて言った。

ピカチュウ「……どうしよう……あれは僕の宝物なんだ……」

ピカチュウは少し涙目になりながら言った。

ピカチュウ「お願い。一緒に取り返してよ。僕一人では行けないよ……」

ピカチュウは言った。

もちろん、ヒトカゲはいいよつて返事をした。

ピカチュウ「本当に！？ありがとう！！さあ、早く行こう！」

そして『海岸の洞窟』かいがんのほらへ向かうのであった……

〜第2話〜 ドガースとズバット、あらわる！（後書き）

もー正直言いたいけど、

ほぼ原作じゃない？

でも探検隊を結成させよーさせよーとさせたら

こうしないといけないからしかたない・・・

〜おまけ〜

アンケートを取りました！

『ピカチュウ』と『ヒトカゲ』どっちが好き？

25人に聞きました。

結果はこうなりました

ピカチュウ 10人

ヒトカゲ 15人

えーと、意外ですねー

（ピカチュウと思ったのにw）

でわまた次回〜

眩き ノートにポケモン関係メモしてるけどめんどくさいっ！

〈第3話〉 チーム結成（前書き）

え！？1日に二回目の更新！？

って思いの皆さん、光輝宙です

調子が良すぎでw

〜第3話〜 チーム結成

あらすじ

ドガースとズバットに大事な岩を奪われた・・・

ピカチュウ達は逃げた先の

海岸の洞窟へかいがほら・・・

.....

そして、二人は海岸の洞窟へ・・・

ピカチュウ「多分ドガース達はこの奥にいるはずだ・・・さあ、早く行こう！ヒトカゲ！」

と言うと、洞窟に入った。

が、入って早速ポケモンがあらわれた。

どうやらシエルダーのようだ。ピカチュウには有利だ。

しかし、体当たりと、尻尾をふるしか覚えてなかった。

ピカチュウ「よし、体当たりだ！」

とりあえず、抵抗しようとするが、かわされてしまう。

シエルダーも体当たりを繰り返して来た。

攻撃はみごとにピカチュウにヒットした。

ピカチュウ「うわっ！」

ピカチュウは飛ばされてしまった。

それをヒトカゲ見ていた。

ヒトカゲもひっかくで抵抗しようと思った。

上手く当たった。そして、シエルダーは倒れた。

ピカチュウ「やるね！一発で倒すだなんて！」

ピカチュウは言った。

ヒトカゲ「適当にわざを出してみたら当たったよ」

と言いつつ奥地へついた。

そこには、ドガースとズバットがいた。

奪った岩を持っている。

ドガース「おやおや。これはよわむし君。こんな所まで来たのかい。」

ピカチュウ「そ・・・その岩を返してよ！それは僕の大切な宝物なんだ！」

ピカチュウは言った。

ドガース「ほう。そんな大事な物なのか。」

ズバット「そんなに大事な物だとよけいに返せなくなったなあ。」

ピカチュウ「そんな・・・」

ズバット「そんなに返してほしければ力づくでかかってくるんだな。」

「

ピカチュウ・ヒトカゲ「なんだと!?!」

いつの間にかにバトルは始まっていた。

ズバットはエアカッターをくりだしてきた。

ズバット「くらえっ!」

みごとによけられた。

この攻撃によりピカチュウは強気になった。

ピカチュウ「ど・・・どっからでもかかってこい!」

ちょっとピカチュウは震えていたが、強気だ。

ドガース「ほう、そんなにビビってちゃ俺たちに勝てないぜ、弱虫君。」

ピカチュウ「ぐぬぬぬ．．．もう許せないっ！」

ピカチュウは怒っている。

ヒトカゲ「よし、早くやつつけねて宝物を取り替えそうよ！」

二人はひっかくや、体当たりの繰り返しでやっとやつつけた。

ピカチュウ「やった！やつつけた！」

ドガース「なんでこの俺が負けるんだ．．．」

ズバット「ケツ！この岩は返すよ！」

ドガース「今回勝っただけでいい気になるなよ！」

ズバット「おぼえてろ！」

そう言つと退散した。

ピカチュウ「ああ、よかった．．．これがないと．．．」

ピカチュウは涙目になっている。

ピカチュウ「とにかく外に出ようよ。」

場所は代わりここは海岸。

ピカチュウ「とりかえしてくれて本当にありがとう！これは僕の宝

物だったんだ。」

ピカチュウ「・・・ねえ、お願い。一緒に探検隊になってよ！僕一人じゃ入る勇気がないよ。。から、お願い！」

ちよつとびつくりしたようすのヒトカゲだが、もちろん、ヒトカゲはいいよと返事をした。

ヒトカゲ（でも、なんで記憶がないんだろう・・・）

なんて思いながらも、探検隊が結成された。

ピカチュウ「教えるの忘れたね、僕の名前は『ミケ』だよ。君は名前だけでもなんとか覚えてる？」

ヒトカゲ（うーん・・・あつ！名前だけは思い出せた！）

ヒトカゲ「名前だけは、思い出せたよ、ヒカルって言うんだ。」

ミケ「へえ、これからもよろしく！」

そして、プクリンのギルド前。

ここは、探検隊になるための授業をする所。

ミケ「ここだよ、探検隊になるためには、ここで修行するんだよ。」

ミケは何かの穴に乗った

すると穴から・・・

『ポケモンはっけん！ ポケモンはっけん！』

『だれのあしがた？ だれのあしがた？』

『あしがたはピカチュウ！ あしがたはピカチュウ！』

と聞こえてきた。

ピカチュウはびっくりしてたが、がまんしてた。

????『・・・よし。 近くにもういつ匹いるな。 早く穴の上に乗れ。』

と聞こえてきた。

これはきつとヒカルのことだろう。

のと同じく・・・

『ポケモンはっけん！ ポケモンはっけん！』

『だれのあしがた？ だれのあしがた？』

『あしがたは・・・えーと・・・多分ヒトカゲ！ 多分ヒトカゲ！』

「多分!？」

『なんだ、その多分っていうのは!??』

とか色々聞こえてきた。

） 一分後 ）

『・・・よし！たしかにヒトカゲはここらではみかけないポケモンだが、怪しくはないからいいだろう。入れ！』

の声を堺に閉まっていた門がひらいた。

ミケ「あっ門が開いたよ！入ろう！」

そして入って行った・・・

つづく

〈第3話〉 チーム結成（後書き）

なんでこんなに長いかって？

話を合わせないと・・・

から本当はドガーズ達との戦い前で区切ってたんだがねえ

以上！！

では明日も書きますー

明日は行けますよー

でも面倒臭いや！

熱っ！熱っ！ヒトカゲに燃やされたっ！

熱いっ！熱いっ！

ちゃんと明日も更新するからっ！

て事でいやいや明日は更新します

熱いっ！

〈第4話〉 ギルド入門（前書き）

申し訳ございませんっ！

一回寝たから更新が遅れました^^；

いそいで書いたから短いかもです

でわスターーーーーー！

〜第4話〜 ギルド入門

あらすじ

省略！

(殴)

ブクリンのギルドの門がゴゴゴと開いた。

ミケ「あっ開いた！」

ミケはびっくりしている。。。

中に入ると、下への梯子はしがあつた。

それを降りると弟子たちでいっぱいだ。

ミケ「わぁーっ！なんか賑やかだね！」

ミケが言った。

するとなにやらさらに下からペラップが来た。

ペラップ「なんだ、さっきのはお前たちか、私はこのギルドの者、勧誘やアンケートはお断りだよ。さあ、帰った帰った！」

ミケ「いや、違うんだ、僕達、探検隊になりたくて……」

ミケはそう言った。

すると、ペラップはびっくりした態度で何かぶつぶつ言いはじめた。しかし、それは聞き取れなかつて・・・

作者「から火炎放射やめてくんない!？」

とりあえず飛ばして・・・(爆)

ミケ「・・・ねえ、そんなに探検隊になるには厳しいの?」

ミケは言った。

ペラップ「えっ!そんな事ないよ!仕事なんて簡単簡単 そんなに
なりたいたらもっと早くこればいいのに」(汗)

ペラップは焦りながらいった。とても焦っているようだ。

ミケ・ヒカル「態度・・・」

二人はすごい退いていた。

ペラップ「探検隊登録をするにはこっちだよ」

と言ってプクリンの部屋へつれられた。

ミケ達が創造してたより普通の部屋だった。

ペラップ「親方様。この者が探検隊になりたいと言つたものです。」

(長いから省略(爆)ヒカル「もう止めとけw支持率下がるぞw」)

プクリン「じゃあ、君達チーム名決めてる?」

ミケ・ヒカル「じゃあ『ポケタンスで!あ、重なったね。』

二人は意見が合った。

プクリン「ポケタンスか!いい名前だね!じゃあこれで登録するよ!登録登録・・・」

たあ—————っ!

プクリンは物凄い声で叫んだ。

「ぎゃああああああああっ!」

他の三人は悲鳴をあげてしまった。

プクリン「おめでとう!これで君はこれでギルドの仲間入りだよ!」

そう言つと、トレージャーバックと不思議な地図をもらった。

説明省略

ペラップ「さあ、明日からは仕事だからもう今日は部屋で休むといよ。部屋はこつちだよ」

そして案内されたのは・・・

部屋

部屋には人数分のベットが置いていた。

そして夜・・・

ミケ「今日は色々大変だったね・・・」

ミケが言った。

ヒカル「うん。何故こうなったのかわからないけどね・・・」

ミケ「その内に色々思い出すって！大丈夫！」

ヒカル「そうかな・・・何があったか覚えてないし・・・」

ミケ「色々話してたら眠くなっちゃった。そろそろ寝ようか。明日から頑張ろうね！ヒカル！じゃあお休み！」

あいからわずミケは元気だった。

ヒカル「うん！お休み〜」

ミケはもう寝静まった。。。

ヒカル（記憶はいつ、どこで消えたんだろう・・・まっとりあえ
ずミケと一緒にいれば何か思い出すかもね・・・）
ヒカル（・・・考え事してたら眠たくなって来た・・・そろそろ
寝よう・・・）

そして、ヒカルも寝静まった。

〈第4話〉 ギルド入門（後書き）

できましたー

省略多いけど無視でよろしく（爆）

本当にすみませんっ

うっ 睡眠・・・

早くねようっ。

〈第5話〉 初めての依頼（前書き）

時間関係で朝から書き初めましたよー

学校行く前に！

えー、先ほど見てきましたが

PV（回覧？）が85ですた！

意外ですねえー

自分のが、こんなに・・・

チーム名は元々のでやりましたが

でわ書きますストーリー！

〈第5話〉 初めての依頼

あらすじ

ミケ達が弟子入りしたプクリンのギルド・・・

なんともものんきなプクリンチーム登録をしてもらい・・・

探検隊になった『ポケタンズ』（爆）

次の日の朝・・・

『おきろおおおおおお！あさだぞおおおおおお！』
物凄いこえがきこえた。

これにより、ヒカルとミケは目を覚ました。

ミケ「ぎゃあああああぁっ」

ヒカル「こ・・・鼓膜が破れる・・・」

二人はともうるさいと思っている。

???『何をしている！！早く起きんか！！』

また大きな声が聞こえて来た。

ミケ「うぎゃあああ……」

二人は気絶寸前だ。

ドゴーム「俺はドゴーム。このギルドの弟子だ。」

ドゴーム「そんなことより早く起きろ！お前達が寝坊してあの親方のたあー……っをくらうのはごめんだからな！」

そう言うと、ドゴームは去っていった

ミケ「うー……まだ耳なりがなってるよ……」

ヒカル「えーと、なんでここにいたんだっけ？たしかこのギルドに弟子入りして……」

覚えてなさそうな感じにいった。

「【注】でも、また記憶が消えた……ってことはないよ（爆）
ヒカルより（笑）」

ミケ「あっここに弟子入りしたんだっ！て事は……」

ミケ「わあ~~~~！寝坊したあ！早く行かないと……」

と早速に走って行った。

そして、地下二回の広場（？）

ついた時にはもうみんな到着していた。

ドゴーム「遅いぞ！新入り！」

ペラップ「うるさい！」

なんと短い会話的な物になった。

ペラップ「さて、みんなそろった事だし、親方様の話を聞くとしよう。」

ペラップ「親方様ー。では一言をどうぞ。」

・・・

プクリン「・・・ぐうぐう・・・ぐうぐう・・・」

ペラップ「親方様、有難いお言葉をありがとうございました」

ピツバ（ピツパ）（これで、話分かるんゲスねえ・・・）

ナリア（キマワリ）（これで話分かるペラップもすごいですわ・・・）

ウィーグ（ハイガニ）（だよな・・・親方様って何考えてんだよ・・・）

ちょっとぞわざわしている。

ペラップ「さあ！みんなでちかいのことは言うよー！」

一同「はーいーい！」

『せえーのー！』

『ひとつ！ひとつ！しごとは絶対サボらない！』

『ふたーっ！脱走したらおしおきだ！』

『みーっっ！みんなが笑顔で明るいギルド！』

ペラップ「さあ！仕事にかかるよ」

『おーいーいーいーっ！』

ミケ「あまり分からなかった・・・」

ヒカル「初めはそんなもん・・・かな？」

と、二人は呟いた。

ペラップ「お前達。何をウロウロしてるんだ。お前達はこっちだ。」

と、案内されたのは依頼掲示板前だ。

ペラップ「お前達はこの仕事をやってもらっよ。」

(説明省略 ヒカル「やめとけよ・・・」)

ペラップ「さて、お前達にどの依頼をやってもらおうか。」

で決め初めて3分後・・・

ペラップ「おっこれなんかいいな　では、これをやってもらおう。」

ヒカル「どれどれ？」

～内容～

こんにちは。私ハネブーともうします。

ある日悪者に私の大事な真珠が盗まれたのです！

真珠は私にとっての命。

頭の上に真珠がないと落ち着かなくてももう何もできません！

そんな時、私の真珠が見つかったかの情報が！

どうやら『しめった岩場』にすてられていたらしいんですが・・・

その岩場はとても危険な所らしく、私そんなところ行けません！

ですので、おねがい。誰か岩場に行って真珠をとって来てくれない

でしょうか？

探検隊の皆さん、お願いします！

～END～

なんと、落とし物を拾って来るだけの依頼でした。

ミケ「これってただ落とし物を拾って来るだけじゃないの？」

ヒカル「じゃあ、行って来ます。」

ミケ「・・・」

あい終わってないよ！

二人はしめつた岩場についた。

ミケ「うわぁ・・・狭そうで危険そうだね・・・」

ヒカル「さあ、早く真珠とってこようか。」

と、内部へ・・・

ミケ「それにしても、結構長いね。」

と、呟いてる間にアノプスが出てきた。

ミケ「敵が出た・・・」

ミケ「いつ!!」

ミケ「うわあああああああ!!」

ミケは落とし穴にはまった。どうやらかなりの深さのようだ。

ヒカル「おうい、ミケええええ、大丈夫?」

ミケ「いたた・・・大丈夫だけど、なんか登れそうで登れなさそうな深さだよ・・・」

と、いつて壁をつたって登りはじめるミケ。

なんとか、登れたようだ。

ヒカル「じゃあ、早く行こうか！」

しめった岩場の奥地へたどり着いた。

ミケ「言ってた真珠ってあれじゃない!？」

ヒカル「多分これだよ！」

これを持って、このダンジョンを出た。

今日の分THE END

〜第5話〜 初めての依頼（後書き）

できました

はい長い！

落とし穴使った！

眠い眠い！！

はい寝る！

てきとーでごめん！

〜第6話〜 時空の叫び（前書き）

あいあー、

朝からの更新急ぐぞー！

昨日はギリギリorz

あ、おまけ編できてないや・・・

よし絶対土曜日やろう（爆）

まあスタートお！

〜第6話〜 時空の叫び

【 あらすじ 】

依頼を成功したミケ達

おわりw

【ええい！迷ったけど省略！】

次の日・・・

ドゴーム『おきろおおおおおおおお！朝だぞおおおおおおお
おおお！』

いつもとおりのさかかった。

ミケ「昨日と同じでも慣れないよ・・・」

ヒカル（鼓膜が・・・）

昨日と同じ状況になっている。

で、地下二階の広場？で朝会を終わらし、仕事にとりかかろうとした・・・としたその時。

ペラップ「お前たち。何そこでウロウロしてるんだ。今日はこっち

だ。」

と、連れて行かれたのは

昨日の掲示板の反対側につれてこられた。

ペラップ「お前たちは、このお尋ねものを捕まえてもらおう。」

と、張られてたのは、指名手配されてるポケモン達。

ミケ「え！？この強そうなのを捕まえろって無理だよ！」

(説明 省略)

ペラップ「じゃあ、ここから弱そうなのを選んでこらしめてやってくれ。と、その前に色々準備があるからピツバに案内してもらおう。」

ペラップ『おーーーーーい！ピツバーーーー！ピツバーーーー』

すると、ピツバが走ってきた。

ピツパ 一旦ストップ！

〈第6話〉 時空の叫び（後書き）

えーと、今回はトゲドゲ山内部ですー

題名にかんしてー

あのヒカルが起こした目眩めまいは、時空の叫びです

が、まだその事について何もしりませーん

でわー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6635x/>

ポケモン不思議のダンジョン 緑の探検隊

2011年10月20日09時14分発行